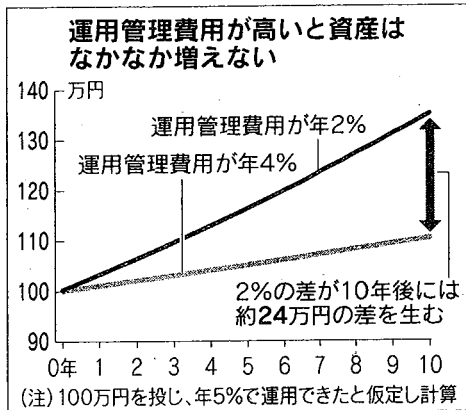


金融商品 選ぶカギ —投資信託 ①

「投資家は運用管理費用にこそ注目してほしい」。投資評価会社モーニングスターの朝倉智也社長はこう話す。運用管理費用は投資を保有していると毎日、自動的に差し引かれる手数料で、信託報酬とも呼ばれる。投資を長く保有するほど重要度は増す。例えば、運用管理費用が

運用管理費 日本は割高



長期保有ほど重荷に

年2%の投信に100万円を投じ、年利5%で運用できたとすると、10年後に資産は約134万円に増える。モーニングスターによると、米国の平均運用管理費用は0.75%、日本は1.36%で、日本の割高が目立っている。

運用管理費用が4%なら、5%で運用しても110万円にしかならない。管理費用は運用の失敗で資産が目減りした場合も発生するので注意が必要だ。規模の恩恵なく、立っ。

「0.4%」も登場

市場全体の規模からすると少数派だが、日本でも運用管理費用の低い投信が徐々に現れている。みずほ銀行は8月26日から運用管理費用が最低0.4%のインデックス型運用投信シリーズの販売をインターネット上で始めた。

金融庁は2014年から始まる少額投資非課税制度（日本版ISA・NISA）をにらみ、長期で保有できる低コストの投信の拡充を各社に促している。株価や為替の先行きは初心者には読みにくい、コストははっきりしている。コストに絞った投信選びも一案だ。